

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



春節(旧正月)のお祝いでおなじみの蛇踊り。昨年春、日本からのお客を歓迎して披露してくれた。

Contents

| | |
|-----------------------|-----|
| 会員総会のお知らせ | P 2 |
| ビデオ『よみがえる森』完成! | P 3 |
| 大同における緑化協力のあらまし | P 4 |

2002.3

84

10年の活動の集大成

ビデオ『よみがえる森』が完成!



GEN10年の活動をまとめた新しいビデオ、『よみがえる森』が完成しました。前回の『森よ、よみがえれ!』から5年。霊丘自然植物園やカササギの森などの新しい協力や、最近たてつけに大同をおそう早魃のようす、ある農民の1日、そして育ってきた木々の姿などがおさめられています。高見事務局長が10年間かかって撮りためてきた100時間をこえる映像の中から、選りすぐられたシーンの連続です。

早魃のために乾ききった畑や伸びなかった農作物、あるいは夏に集中する雨によって流される黄土、くずれたヤオトンなどの映像は黄土高原の環境のきびしさを訴えます。そのなかで淡々

と日を重ねる農民の姿は、豊かで便利が当たり前になり、ひ弱になった日本人に、豊かさとはなにか、生きるとはということかを無言のうちに問いかけているようです。

そんな大同の村のいくつかで、ようやくマツやアズが育ってきたようすを、今回のビデオにおさめることができました。水を保ち、土をつくりだしている自然林の姿とあわせて、大同の緑化の可能性をより強く感じさせる作品になっています。

21世紀には、世界中で水問題が深刻になるだろうといわれています。大同でもそれが顕著にあらわれています。そんな現状を、少しでも多くの人に



知っていただきたいと思います。ぜひ『よみがえる森』をご覧ください。

ビデオ『よみがえる森』

VHS・カラー・30分

価格：5,000円（GEN会員価格4,000円。送料270円別途）

申込み：GEN事務所まで

できることから、やってみよう ~みなさんのご協力をお待ちしています!

不景気、低金利とNGOにもきびしい世間の状況。そのうえ、国際協力にたずさわるとしては円安も強い逆風です。

10年の活動をかさねてきて、運営はいっこうに余裕がありません。みなさんのご協力でなりたつGENの活動に、いっそうのご支援をお願いします。

会員になってください!

まだ会員になっていない方、ぜひ会員になってGENの活動を支えてください。また、環境問題や国際協力に関心をお持ちの知り合いに、会報の購読などをすすめてください。

カササギの森にご参加ください!

1haの緑化費用5万円を一口として2000年秋から協力を募っているカササギの森は、現在までに97haのご協力を

いただきました。協力者への報告が遅れていますが、この春の写真をいれて5月にはお届けする予定です。

カササギの森の敷地は約600ha。植樹可能な地域はおよそ半分ですから、まだまだ余地はたっぷりあります。みなさんのご協力をお願いします。

緑化基金、運営カンパもとむ

金額はいくらでもけっこうです。みなさんのお気持ちをわけていただけると嬉しいです。

ビデオ『よみがえる森』ご購入を!

沙漠化、水不足など黄土高原の環境問題とGENの緑化協力を30分にまとめました。価格は5,000円、GEN会員価格は4,000円（送料270円別途）です。

絵はがき『中国・黄土高原』をご利用ください

橋本紘二さんの写真で制作しました。『春』『夏』『秋・冬』『緑化』の4種類、それぞれカラー8枚組、1セット（8枚）500円（送料別）です。

使用済みテレカを回収しています

使用済みテレカを換金して苗木代にあてています。現在、1枚でマツ苗1本分になります。対象は折れ、汚れのないテレカのみです。その他のカード、使用済み切手は集めていません。

また、使うあてのない未使用のテレカも大歓迎。

書き損じはがきを集めています

書き損じはがきを回収して、通信費にあてています。そのほか、古い未使用のはがき、切手なども歓迎です。

商品券などをお寄せください

ご家庭で眠っていて使うあてのない図書券、文具券、各種商品券がありましたらお送りいただけると嬉しいです。

ボランティア募集

会報の発送、テレカの整理などの誰にでもできる作業が中心です。ボランティア可能な曜日、時間帯をご連絡ください。来ていただきたいときに、GEN事務所から連絡します。

(前ページからつづく)「樹冠投影図」です。それぞれのグループのデータをつなぎあわせて1枚の図に仕上げるのですが、大きく広がった枝が重なり合い、どの木が一番上になるのか判断に迷います。それでもなんとか仕上げた図は、一番苦労した方の記念品になり

ました。

参加者の多くが里山保全などに関わっておられて、ご自身の活動に生かそうと熱心に受講されました。

今回は植物標本づくりに挑戦しましょうと言いながら、有意義な実習を終えました。(東川)

緑の地球ネットワーク 大同における緑化協力のあらまし

前号でGEN10年のあゆみをご紹介しました。緑化協力というと、木を植えるだけだと思いかもかもしれませんが、条件の厳しい黄土高原ではただ植えるだけでは木は順調には育ちません。では、どうすればいいのか。それを探り続けた10年間だったといえるでしょう。

そうするうちに、活動内容は単純な植林協力からどんどん広がり、いまでは「どんなことをしているのか」を初めての人にわかってもらうのがむずかしいまでになってしまいました。

そこで、今回からしばらく、大同におけるGENの緑化協力のひとつずつをあらためて解説します。今回は全体像と、カウンターパートである緑色地球ネットワーク大同事務所についてです。

大同におけるGENの緑化協力は、大きく次の5つに分けられます。最初はマツ等の苗木代提供にはじまった協力が、の造林プロジェクトから、そのプロジェクトを成功させるためのソフト面での協力、へと広がっていき、同時にたくさんの専門家の協力を得られるようになりました。

地球環境林

山地・丘陵地の緑化をめざす環境改



地球環境林



小学校付属果樹園の植樹作業



地球環境林センター



霊丘自然植物園のスタッフ



カササギの森での植樹作業

善のための緑化プロジェクト。マツと灌木を混植している。

小学校付属果樹園

村の教育条件の改善にもつなげる果樹園づくり。アンズ、リンゴなど。

地球環境林センター

大同市14,000平方kmに散在するプロジェクトを統括する基地。苗畑、温室、実験・研修施設、見本園などを備える。

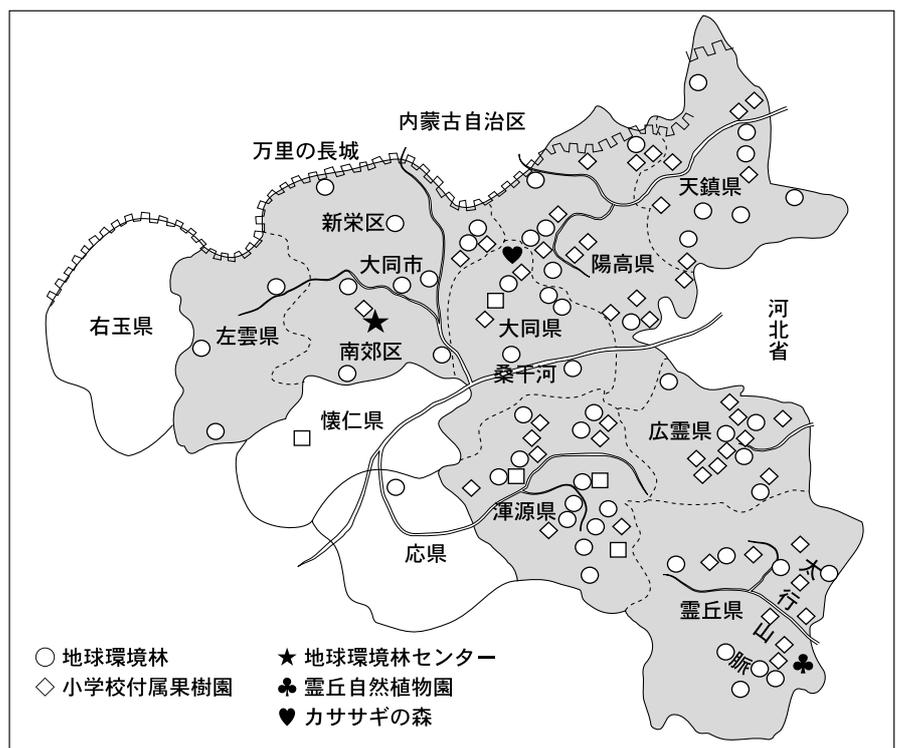
霊丘自然植物園

自然の植物遷移を観察したり、新しい種類の苗木を育てたりする。

カササギの森

さまざまな方法を自由に試すことができる実験林場。

これらを統括しているのは、緑色地球ネットワーク大同事務所です。カウンターパートは国際協力の鍵です。GENの自慢のカウンターパート、緑色地球ネットワーク大同事務所については、次ページで高見事務局長が紹介します。



緑色地球ネットワーク大同事務所



渾源県で最初に緑化協力活動をスタートさせたのは1992年です。そのころはやるのがうまくいなくて、たいへんだったんです。一般的に言えば、日本側と中国側とで、おたがいに事情がわからず、信頼関係も成立していません、ということでした。

もっと具体的にいうと、93年7月に旧雁北地区と大同市が合併して、新しい大同市が誕生しました。以前の雁北地区には、右玉・左雲・懷仁・応・大同・陽高・天鎮・渾源・広靈・靈丘の10県が属していましたが、そのうちの右玉・懷仁・応の3県がとなりの朔州市に併合され、残りの7県が大同市に併合されたのです。もとの大同市は城区・砒区・南郊区・新栄区の4区からなりたっていました。新しい大同市は4区7県で構成されることになったんです。

日本でもいま企業の合併が盛んですが、人員配置の合理化、削減は、その目的の1つでしょう。大同の行政改革もそうだったでしょう。幹部=公務員にしてみれば、自分の身分がどうなるか、心配でたまらない時期だったんです。そして、頻りに人事異動がくりかえされました。数か月おきに訪れると、そのたびに責任者が交替している、といったありさまです。ちゃんと引き継ぎもなされていません。

94年春から、共青团大同市委員会副書記・大同市青年連合会副主席の祁学峰が、この協力事業を担当することになりました。それまでとタイプがちがいました。「こういうことをしたい」と私がいっても、すぐにOKをだしません。考えに考えて、「この問題とこの問題を解決できれば、実現が可能だと思う」というふうに答えるんですね。頭のなかでシミュレーションしているんでしょう。それまでの幹部は、ほとんど反射的に「没問題！」(ノープロブレム)と答えるんですけど、実際はそういかないことが多かった。

初めてそのとき、74年からの私の友人の王黎傑さんが、大同にきて通訳し

てくれていたんですよ。彼女に私は、「あなたは祁学峰をどう思う？」と尋ねました。彼女は「ほかのメンバーは祁学峰のことを怖がってますよ」というんです。それくらいがちょうどいいだろうと、思いました。なんとか彼を、この事業に固定したいと思ったんです。

私は祁学峰を必死で口説きました。「私たちの協力活動はいまは小さいけど、発展の可能性はある。中国にとって、環境問題は深刻化するっぽうだからだ。しかしいまの大同の体制では、長期の活動を支えることはできない。このままでは私だってつづけられない。この活動のことを四六時中考えている人間が、最低1人は必要なんだ。この活動のために専門の組織をつくり、あなたが責任者になってほしい」と。

大同側は、こちらの意図を判断しかねたようです。王黎傑のところへ何度も相談にいったようです。それが私のところに伝えられます。彼女がいなかったら、あれほどスムーズにすすまなかったでしょう。

日本に帰ってから連絡がきました。こちらの希望どおりの事務所をつくるということです。その名称が「緑色地球ネットワーク大同事務所」だった。う～ん。「ネットワーク」です。私たちの現地事務所と誤解されそうです。日本でも中国でも。でも、先方で気に入ってくれたのに、クレームはつける話でもない。こちらも賛同しました。

祁学峰の奮闘のおかげです。大同市の政府もそれを公認し、公務員枠まで認めてくれました。「定員いっぱいまで早く人をいれて、体制を強化してほしい」と私は要請しました。すると祁学峰は、「バカをいうな。あせて人をいれて、その人がしごとができなかったらどうするんだ。できないだけならまだしも、ひとの足を引っばるのが専門の人間だっているんだ。いまはリストラの時代で、事務所にはいたい人はいくらでもいる。いったんいたら公務員だから、かんたんにクビにできない。いまは無能な人に席を占めら

れないよう防ぐのがだいじだ」というんです。

たしかにそのとおりでした。私なんか甘ちゃんなんですね。こういうことに繰り返して、中国のことを少しずつ理解できるようになるんですけど。

大同事務所ができ、祁学峰が所長になってからも、プロジェクトの失敗はありました。日本人には、理解の困難な環境です。自然だけじゃない。社会的な関係、人的な要素、いろいろあります。祁学峰も私も、失敗のなかで鍛錬されたと思います。

祁学峰は1999年、共青团大同市委員会書記・大同市青年連合会主席になり、責任の範囲がずっと広がりました。緑色地球ネットワーク大同事務所の所長に、武春珍が就任しました。彼女がこの事業に参画したのは前年からです。でも1年間の準備期間がありましたので、引き継ぎがスムーズにすすみました。

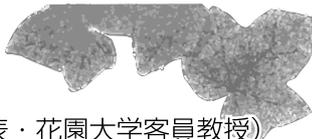
昨年4月、日中緑化交流基金の中国側受け入れ団体の会議が開かれたとき、祁学峰は、求められて2回、発言したそうです。そのなかでこの協力活動が前進できた要因として、4つあげました。

その第1が、「専門の組織を必ず作るべきだ」というものです。緑色地球ネットワーク大同事務所のことです。「そこで資金管理、技術指導、接待などのしごとを専門的に実行している。緑化事業は一時のセレモニーとはちがって、期間が長いし、内容も複雑である。青年団のばあいは人事異動が早いので、そのような組織がないと事業を継続できない」と述べたんですね。

彼のこの総括には完全に同意します。その他の3項目について、表題だけを書いておきましょう。

- 2) 緑化のための基地をつくるべきである。
- 3) 造林プロジェクトは集中したほうがいい。
- 4) 管理が重要である。 (高見)

植物を育てる (15)



立花 吉茂 (GEN代表・花園大学客員教授)

森林の多様性

地球環境を護るために森林が大切なのはだれでも知っていることだが、人類生存のためということになるともうひとつ、資源としての重要性を忘れるわけにはゆかない。シベリヤとカナダには大面積の針葉樹林がある。これは地球の大きな炭素の蓄積場所である。そして現在、材木としての資源でもある。そこには恐竜のいた頃から生き残ってきた耐寒力の強い少数の針葉樹が延々と生い茂っている。その特徴は大々的な面積にきわめて少数の種類があることである。言い換えると多様性の少ない大森林である。これに反してアマゾンなどの熱帯雨林にはきわめて多数の種類が樹木があり、そこに住む動物の種類もけたはずれに多い。そこは多様性がきわめて大きい。

シベリヤもアマゾンも、アフリカのサバンナなどと異なり、よく鬱閉した立派な森林である。しかし、その多様性となるとまったく異質で、後者には比較にならぬほどの多くの生物種があり、未来の遺伝資源としての重要性をもつ。森林の多様性は、そこにある植物と動物の種類数の豊富さにあるといえよう。それはまた、自然度の高低という表現もできる。自然の豊かさ、面積や量ではなく、種類数であると言える。

種の多様性

豊富な種類数のある森林には、門

綱目科属種とすべてのグループに多様性があるわけだが、最下単位の種の場合、その多様性は進化論的にきわめて重要である。それは個体間の多様性でもある。海洋で仕切られた列島や群島には島固有の種があったり、種を分けるほどでもない個体変異があったりする。ガラパゴス諸島がその良い例である。

種の多様性は個体変異から始まるというて良いだろう。個体変異は「枝変わり」のような突然変異でも起こるが、子孫を残す過程でまず発生する。種子をつくるための細胞分裂(減数分裂)でまず多様性のある配偶子をつくりだす(図1)。さらに「受精」によって異質な遺伝子を取り込む。時には雑種もできる。これは大きな変異をもたらす。生物は純粋になることを避けて雑種生になろうと努めているようにみえる。このことが、生物進化の原点になったのである。

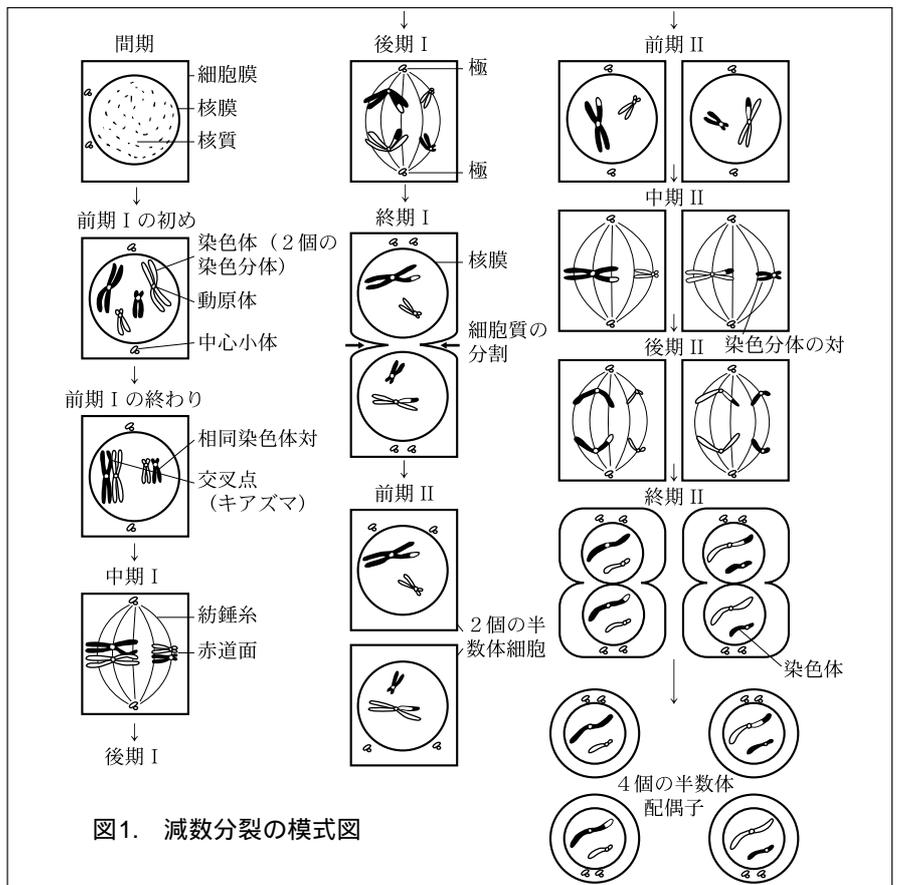


図1. 減数分裂の模式図

2002 夏の黄土高原ワーキングツアー予告

この春は、3月24日からのGENのツアーにはじまって、OFS(オリエンタルランド労組)東北電力総連、(株)リコーと合計4つの団が大同を訪れることになっています。また、それ以外に見学者を受け入れる予定もあり、にぎやかな春になりそうです。

さて、夏のワーキングツアーのだい

たいの予定をたてました。まだ確定ではありませんが、「行ってみようかな」という方は、スケジュール帳にチェックをいれておいてください。詳しくは次号でお知らせします。

【2002夏の黄土高原ワーキングツアー】

日程：7月26日(金)～8月2日(金)

費用(予定)：一般=20万円、学

生=19万円(国際航空運賃、中国国内での交通費/食費/宿泊費、ビザ取得費用、GEN年会費ふくむ) 中国国際航空利用 関西国際空港発着 成田空港発着便ご利用の方は航空運賃の差額分高くなる場合があります。

定員：30人(先着順)

募集は5月からはじめます。

黄土高原史話〈6〉

リヒトホーフエンの神話？

谷口 義介（摂南大学教授）



西安を発って河西回廊を過ぎ敦煌に至ると、西域の香りが強くなります。乾燥した駱駝の糞の臭いも混じって（写真）。これより先、トルファン、ウルムチ、クチャ、カシュガル、そしてサマルカンドと、その名も魅惑的なシルクロード沿いの都市が続きます。

この「シルクロード」の命名者が、他ならぬドイツの大地理学者リヒトホーフエン男爵。

1869～72年の間、中国の各地を縦横

に踏査、荒寥たるゴビ砂漠や黄土台地の奇観を目にし、帰国後、有名な黄土風成説を発表します。中央アジアの乾燥地帯から強い偏西風によって運ばれてきた微細な土砂が、ちょうどカーペットのように原地形上を覆って出来たものだ、と。他に氷河運搬説、水中堆積説もありますが、11月の敦煌と3月の大同に行った

経験からいえば、まさしく黄塵万丈、風成説が実感できます。

しかし、黄土という土壌自体が極めて栄養分に富み、水さえ供給すれば“自己肥培”の能力をもつ、というリヒトホーフエン以来の黄土肥沃説は、果していかがなものか。黄土はもともと多量の石灰分とアルカリ分を含むから、というのですが。

しかし、最近の中国土壌学は、以下のように考えています。

もちろん、すべて黄土を母材として

いるわけですが、大略
(1) 壤土：長年月にわたり人為的に施肥され続けてきたことによって形成された土壌で、最も肥沃。

(2) 褐土：落葉樹林の腐植土が混じって出来た土壌で、(1)に次いで肥沃度が高い。

(3) 黒礫土：森林草原環境のもとで生まれた土壌で、肥沃度は(2)より劣る。

(4) 黄綿土：元来の黄土質母材の特徴を示し、有機質含有量が少なく、決して肥沃ではない。

と分類。本来の「黄土」そのものが即「肥沃」とはいかないようです。

もともと肥沃なうえ、粉みたいに細かく軟らかい。水分で固まりますが、すぐ砕けます。だから石器や木器・貝器などプリミティブな道具で十分耕作できる黄土は、新石器時代から豊かな収穫を約束した、というのが従来定の説。しかし「肥沃な黄土」は、前提に森林と草原があつてのゆえ。ちなみに施肥が一般化するの、ずっと遅れて戦国時代になってからです。

GEN自然と親しむ会

春季・びわ湖の水源地とふれ愛の森づくり

「NPO自然と緑」（石原忠一代表、山中澄雄事務局長）は、比良山麓で森林づくりをおこなっています。4月の催しにGENも参加させていただきます。自然とふれあう楽しいプランがいっぱいです。ごいっしょしませんか？

日時：4月7日（日）午前10時 JR湖西線「北小松」駅前集合

活動場所：馬ヶ瀬山国有林・大阪市水道局の水源地の森で森林作業

内容：

ヒノキ林・間伐と皮むき

生えたらいいなマツタケ・森林整備
炭焼き、しいたけ植菌・ワサビ畑整備

山菜料理講習（ウド、タラの芽、ワラビ）

休耕田で花の咲く木の苗畑づくり
水道局の森で植樹（クヌギ、トチノキ、ヤマザクラ、タムシバなど約100本）

子どもたちのアマゴ稚魚放流と森林教室

参加費：500円（保険料、ブタ汁代を含む）

持ち物：登山・森林作業のできる服装、弁当、水筒、雨具、手袋、筆記用具など。

募集人員：250人まで。

主催：NPO自然と緑

参加申込み：希望の作業内容を明記して、FAX、ハガキ、eメールなどで緑の地球ネットワークまで。締切は3月末。

6日（土）には早春の比良山登山も計画されています。募集人員は30名です。6～7日の参加者は近くの「湖畔荘」に宿泊ができます。くわしくはGENまでお問い合わせください。

連絡先の変更を

お知らせください

春は進学・就職・引っ越しのシーズン。ご住所、電話番号、学校、勤務先等の変更がありましたら、GEN事務所までご連絡ください。また、メールアドレスの変更もお忘れなく。

GENでは、イベント案内や高見事務局長の不定期メルマガ「黄土高原だより」をeメールでお送りしています。配信ご希望の方はメールアドレスをGEN事務所までeメールでお知らせください。



六甲奨学基金のための
第5回古本市

アジア人留学生・就学生への六甲奨学基金のための古本市の季節です。去年はなんと、220万円以上の売り上げになったそうです。ご家庭に眠っている不要な本を役立ててもらいませんか。

受付期間：3月31日まで（必着）
送付方法：直接持参または送料送り主負担で送付

【注意】

- ・読む人の立場になって、汚れ・破れのひどいものはご遠慮ください。
- ・辞書大歓迎。絵本、マンガ、洋書可。
- ・雑誌、教科書、参考書、コンピュータ解説書、百科事典などは不可。
- ・価格設定はおまかせください。お送りいただいた本はお返しできません。

【古本市ボランティア募集】

3月15日から5月15日までの古本市期間中のボランティアを募集しています。可能な日にち・時間を主催者まで郵便、ファックス、eメールでご連絡ください。

送り先・問合せ先：（財）神戸学生青年センター 古本市係（〒657-

0064神戸市灘区山田町3-1-1 TEL. 078-851-2760 FAX. 078-821-5878
URL <http://www.hyogo-iic.ne.jp/rokko/>
e-mail : rokko@po.hyogo-iic.ne.jp

地球環境大学講座

生物多様性、熱帯林、里山、湿地、ゴミ……広範囲にわたる地球環境問題にさまざまな角度から迫ります。詳細は主催者にお問い合わせください。

総合企画：河野昭一さん（京都大学名誉教授・IUCN委員）

講座日：4月13日、27日、5月11日、25日、6月8日、29日、7月13日、27日、9月14日、28日（全て土曜日）

時間：13時30分～17時

場所：大阪市長居公園内大阪市立自然史博物館講堂

定員：180名

受講料：15,000円（10回）学生12,000円（10回）

主催：（社）大阪自然環境保全協会
申込み：住所・氏名（フリガナ）・年令・性別・職業・電話番号を記入して下記まで郵送、FAX、e-mailで。
申込先：地球環境大学講座実行委員会（〒530-0015 大阪市北区中崎西2-6-3 パステル1-201（社）大阪自然環境保全協会内、TEL. 06-6374-3376 FAX. 06-6374-0608 e-mail : cope@nature.or.jp）

締切り：3月31日（ただし、定員になり次第締め切り）

第13回森と花の祭典
みどりの感謝祭

GENの関東 brunch のメンバーが出展します。ぜひお立ち寄りください。

日時：4月29日（祝）10時～16時
場所：日比谷公園小音楽堂前広場、にれのき広場等

内容：緑と花のプレゼント / 林産物、木工品等の即売 / 森林教室 / 樹木の診断教室 & 園芸教室 / 木工教室 etc.

ブントンをどうぞ

高知の田中さんから、季節の柑橘のご案内です。

土佐文旦（低農薬、有機栽培）

| | | | | |
|---|-----|----|-------|--------|
| A | 5kg | 3L | 8～9玉 | 3,500円 |
| B | 5kg | 2L | 10玉前後 | 3,000円 |
| C | 5kg | L | 12玉 " | 2,500円 |
| D | 5kg | M | 15玉 " | 2,000円 |

（10kg箱も用意しております）

出荷：4月上旬まで

送料別途：関西630円、関東840円

ご注文は田中隆一さんまで

〒781-7412 高知県安芸郡東洋町甲浦
TEL./FAX. 0887-29-2500

売り上げの一部をご寄付いただいていますので、ご注文の際は「GENの紹介」とひとこと添えてください。